

補聴器購入費助成事業のアンケート結果を公表します

～ 利用者の6割以上が聞こえの改善を実感、4割以上が人とのかかわりに変化 ～

横浜市では、認知症のリスク因子の一つである「難聴※」の改善のため、補聴器購入費助成のモデル事業を実施しています。

このたび、事業利用者 232 人を対象に、補聴器装用前後についてアンケート調査を行ったところ、「聞こえ」の改善だけでなく、会話や交流など人とのかかわりに関する項目でも前向きな変化がみられましたので、その結果を公表します。

※喫煙や外傷性脳損傷など 14 の修正可能なリスク要因に対処することで、認知症の 45% は遅らせたり軽減できる可能性が示されており、難聴もそのリスク要因の一つとして挙げられています。(2024 年、医学誌『Lancet』)

1 調査の方法

令和7年度横浜市補聴器購入費助成事業の利用者 232 人を対象に、補聴器装用前と装用後約3か月後を目安に、それぞれ「聞こえ」や「暮らし」の状況についてアンケート調査を実施し、各回答者の装用前後における回答の変化を分析しました。

本調査は、日本聴覚医学会「補聴器適合検査の指針（2010）」の質問紙に基づき、日常生活における「聞こえ」に関する状況を評価するとともに、会話の回数や社会交流頻度等の「暮らし」に関する状況についても調査しました。

【補聴器装用前アンケート】

【補聴器装用後アンケート】

補聴器装用前
の状況を調査

補聴器装用から
約3か月後

補聴器装用後
の状況を調査

効果検証のポイント

- ・補聴器購入のきっかけになったか
- ・購入後も使い続けられているか
- ・聞こえは改善したか
- ・コミュニケーションに変化はあったか
- ・社会交流に変化はあったか

2 調査から分かったこと

(1) 助成事業が補聴器購入の後押しに

利用者の 72.9% が、本事業が補聴器購入のきっかけとなったと回答しました。また、購入した補聴器を継続して使用している方は 98.6% であり、補聴器が日常生活の中で実際に活用されていることがわかりました。

(2) 聞こえに関する全ての項目で改善

補聴器装用前後を比較した結果、日常生活における聞こえに関する全ての調査項目で改善がみられました。各項目で6割以上の方が改善を実感しており、多くの利用者が聞こえやすさの向上を感じていることが確認されました。

(3) 「聞こえ」の改善に加え、人とのかかわりにも変化

補聴器装用後は、「会話が減ったと感じる頻度」「一人でいたほうが楽だと感じる頻度」「家族以外との交流頻度」の項目で、4割以上の方に改善がみられました。

コミュニケーションや社会参加に関する項目で前向きな変化がみられました。

裏面あり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



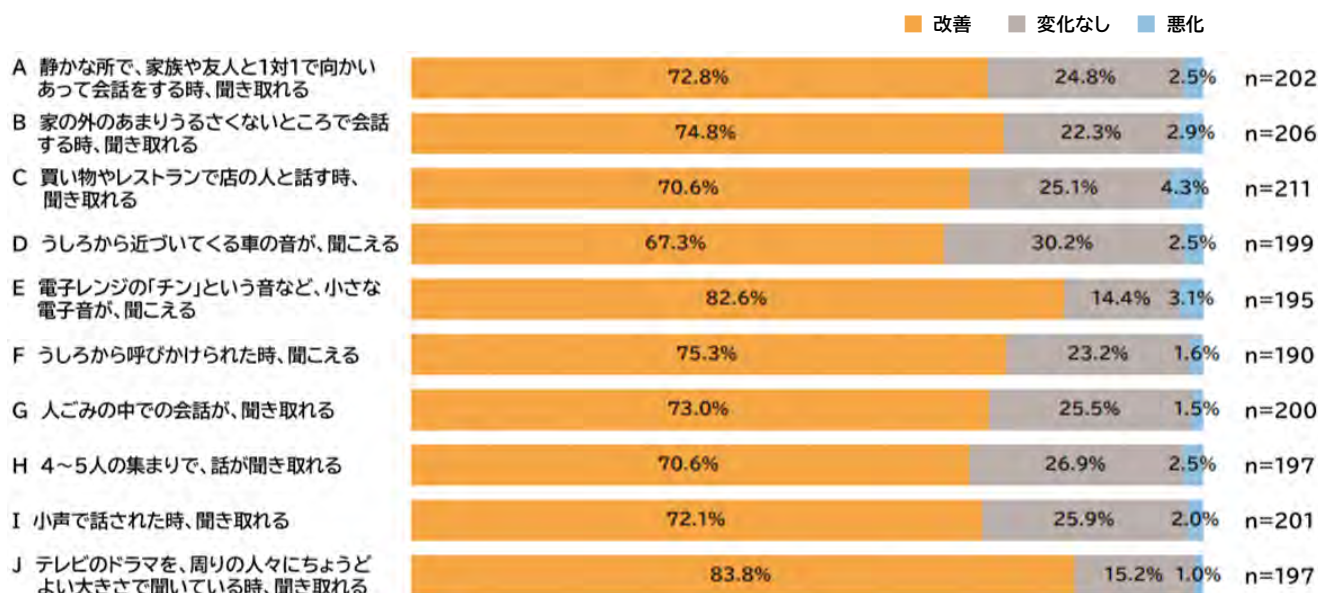
3 補聴器装用前後の比較結果

各回答者について、装用前後のアンケートにおける同一設問への回答を比較し、「聞こえ」と「暮らし」に関する項目の改善状況を分析しました。

(1) 「聞こえ」の変化

補聴器装用前後を比較した結果、「聞こえ」に関する全ての項目で改善がみられました。各項目で6割以上の方が改善したと回答しました。

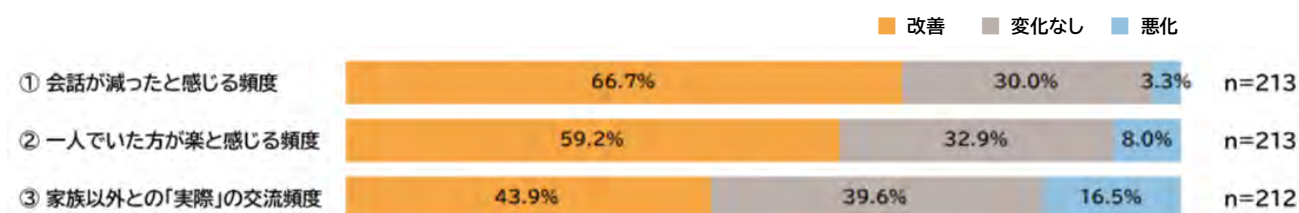
【「聞こえ」に関する項目】



(2) 「暮らし」の変化

会話が減ったと感じる頻度、一人でいた方が楽だと感じる頻度、家族以外との交流頻度において改善がみられました。これらの項目では4割以上の方に改善が確認されました。

【「暮らし」に関する項目】



4 今後の事業展開

横浜市では、令和8年度も補聴器購入費助成事業を実施しています。

今回の調査結果も踏まえ、高齢者の聞こえの改善や社会参加の促進、生活の質の向上につながる取り組みを進めます。

●横浜市補聴器購入費助成事業ウェブページ URL

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/iryo/seisaku/hochokijosei.html>

お問合せ先

医療政策課長 新堀 Tel 045-671-2438



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

